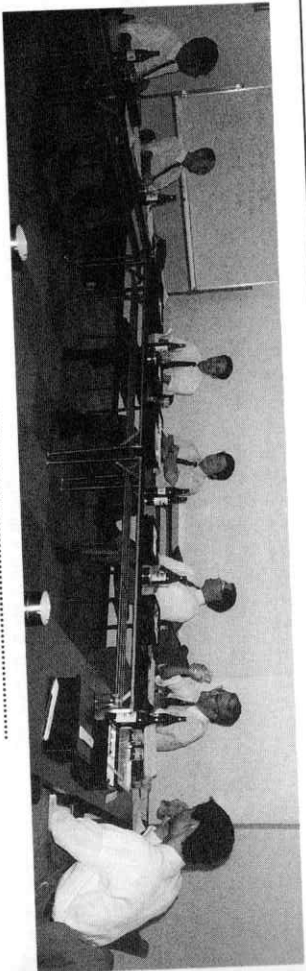


座談会

平成3年9月19日於日赤会館にて座談会開催 出席者下記の通り。

山本 洋彦 (昭和41年卒・司会)	加藤 俊武 (昭和41年卒)
二方 忠英 (昭和42年卒)	門倉 洋 (昭和43年卒)
金原 (大嶋) 俊次 (昭和43年卒)	西沖 晃 (昭和44年卒)
平井 克英 (昭和45年卒)	古沢 信次 (昭和45年卒)
佐藤 芳朗 (昭和48年卒)	



山本 今日はお忙しいところ、しかも大雨の中、集まっていたきありがとうございます。50周年記念と言うことで、思い出を語ってもらおうと思うが…。まずは、部創設以来初めて2部に落ちて、暗黒の時代に突入したあたりからどうかな。

西沖 なにしる負けた直後の日吉の合宿には、OBが沢山来ましたねー。私は1年生だったので、余計強烈な印象として残っている。平井 入替戦で負けたんだけど、相手はどこだったかなー。

金原 日大とあたって負けた。
加藤 秋のリーグ戦では、優勝もしなかったし、最下位にもならず、入替戦なしで、それなりに、2部の地位を確保した。(笑い)
二方 当時の山本主将は、コマ不足で、大変だったよね。さしずめ、阪神の中村監督の心境だったんでは。(笑い)

山本 なにしるオーダーで苦労するなんてこ

となかった。限られたメンバーしかいなかったから。伊丹、金原ぐらいしかまともに打てるのがいなかったんだから。(笑い)
二方 それにしても当時の金原は、しつこかったね。とにかくつないでつないで、動き回っていた事が記憶に残っている。

平井 当時のリーグ戦は、神田の国民体育館で行われたが、今はもうなくなっている。何かなつかしい。

加藤 早慶戦は、たしか1-4位で一方的にやられた覚えがあるが、主将戦は、早稲田が中山だったので、それなりに格好がついたな。それにしてもあの中山は、どうして高木紀子さんを射止めたのかなー。確か山本と同じ会社だったはずだが。

山本 中山とは同じ会社へ入ったが、どうして高木紀子さんをものにしたかは、それこそミステリーだ。

金原 我々の頃の合宿は、どうだったかな。

40年は確か吉原だったと記憶しているが。富士山を見ながらの合宿だったけど、二方さんがほら、朝の集合で悪い事して主将にえらく怒られたりして。

加藤 平塚や秋田でも合宿したけど、いつも悪い事してたのは、二方だったよなー。(笑い) 秋田の合宿では、佐々木が高校生で、特別参加したけど、その時餘野木が突然盲腸になって病院にかつぎこまれたりしたね。

金原 合宿では、前橋、大垣もあったし、ずいぶんあちこち行った。釜石もあったね。

西沖 合宿の思い出で何で千葉を覚えてるかというと、4年なのにかなりしぼられた記憶がある。OBがずいぶん来てくれかわり、たちかわりしぼられた。又、合宿だか、早慶戦だか忘れたが、その期間中にソ連の友好試合に参加して、当時の千葉主将に、お前は何かを考えているかと、ずいぶん怒られた。日ソ友好祭という大会で、私の先輩とか、学校の先生達から声をかけられて、参加した。

加藤 そういえば、西沖は1年か、2年の時ぼつと意味なく休んだね。何の連絡もなしで、いわゆる無断欠席だった(笑い)。何で覚えてるかというと、練習がいやになつたわけでもなく、とにかく理由なしに、突然ぼつと休んだんで、良く憶えている。

平井 合宿は、悪い思い出こそあれ、良い思い出は本当に少ない。悪い思い出は、すぐ忘れるから、今思い出そうとしても、なかなか思い出さない。それにしても、当時の合宿は今から思うと、メチャメチャで、非科学的だった。水を飲んじやダメなんというのは、今ではまったく正反対ですからね。やはり精神論が先にたつていましたね。

二方 とにかく何かあれば「うさぎとび」。選手でなくともうさぎとびだから、あれには

まいりました(笑い)。きわめつけは、やめろというまでやれと言われて、やっていたら、命令した本人が、忘れて帰ってしまったことまであった。(大笑い)。

山本 先日、小島一平に久しぶりに会ったら今ごろの若いプレイヤーの体力のなさを、なげいていた。フォームはきれいだし、技術はけっこう持っているが、なにしろとれないと思つたら、とらない。そういう点につけいって、今でも若いプレイヤーに、シングルスで勝ると、残念がついていた。

加藤 そういえば、Aさんという女子選手がいて、皆で追っかけまわしていたなー。(笑い) だしぬいたり、だしぬかれたりで、藤沢の海岸へ夏に皆で泳ぎに行つた時は、ピキニのセパレーツがどうのこうのと、大変だった。

金原 そんなことがあったのも、当時は山本主将が練習やるだけが能じゃないと言って、海へ行ったり、山へ行ったりして、いわゆる管理職(笑い)として、チームをまとめるのに苦労していた。それに反して、当時の宮永監督は、1分1秒も無駄にしないで、とにかく練習、練習ということで、時間さえあれば日吉の記念館前のロータリーを何周も何周も走らされた記憶がある。練習が終つた8時頃から走り出すから、9時は完全にまわっていた。

二方 それから麻雀に行つたんだから、えらく帰りが遅かった。(笑い)

西沖 トレーニングといえば、まむし谷の階段の登り降りと、記念館前から駅に通じるいちよう並木の坂のダツシュ。こればかりやらされていた記憶がある。

山本 当時の我々は、宮永さんをはじめとしてそうそうたるメンバーがいて、その時の練習、トレーニング内容をそのまま、メンバー

の少ない我々の時にも継続してやったから、かなり皆きつかったと思う。しばらくしてから皆が考えて少しずつ練習やトレーニング方法を变えていったのでは。

古沢 でも我々の時(45年頃)でも、とにかく上級生が走れ走れで、グランド20周をいつもやっていた。適当にごまかそうと思って途中でやめると、木の陰に隠れて見えて、ハイあと10周なんて言われた(笑い)。

佐藤 私の時代は、上野が1人とびぬけていて、小池さん、林さん、古沢さんの様な伝統的(?)な精神論者はおらず、とにかくトレーニングにあげくれた思い出がある。箱根合宿と称して、関東大学駅伝のコースを皆で走ったこともあった。

平井 ところで我々の代では、前代未聞の「坊主事件」があった。連判状まで出て。

金原 たしかにあれば、前代未聞だね。監督命令を現役が無視してしまったのだから。上級生が下級生に監督をとるのか、我々をとるのかと言ってきた。我々は監督をとるに決まっていると言った。結果として上級生を無視した形になったが、結局みんな坊主になった。門倉 上級生と下級生のつながりという意味では我々はうまくやってきた様に思う。

金原 確かに主将の中にも、2つのパターンがあって、自分は黒子になって皆んなをもちたてるタイプと、自分が先頭に立って皆んなをひっぱっていくタイプとあった。伊丹主将なんか、後者の良い例で、ものすごく努力した。マラソンなんかも、いつも先頭に立って走ったが、最後になると、いつも抜かれてた(笑い)。皆んなも意地が悪いよね。

二方 現役はあまり強くなかったけど、学連は強かった。(笑い)立教、明治、慶応で持ち回りでやっていた。全日本が1年おきで、

その間が関東の委員長をやっていた。関東学連の委員長はシャトルの検定に立ち会わねばならず、慶応は2部だからダメと言われて、全日本の委員長におさまった記憶がある(笑い)。

山本 今夜は、大雨のせいで、女子の参加がないが、女子に関する思い出などあったら。二方 やはり水野さんがきつかった。日吉に行くといつも狙われて2-1をやらされ、ノータッチをくろうとうさぎとび。本当にきつかった。

古沢 我々の代は女子4人位で1番多かったがそれぞれ代が苦勞していた。

西沖 結局この40年~48年の間には、2回1部に戻った。1回は私の時、そしてもう1回は平井の時だと記憶しているが……。(実歴は1回だけ。)

金原 納会のとときの三賞はいつから始まったんだっけ。

平井 あれは私達の代からスタートした。私ももらった。敢闘賞、最高殊勲選手賞、そして新人賞の3つだった。

金原 あれを何故制定したかというのと、部で対外的にトロフィーをとれる様な選手がいなくなつた。それまでは他でもらえたんだが、それではさみしいからというので、卒業するまでにトロフィーの1つ位はとらそうということ、OB会でお金を出して始めた。

山本 色々と皆さん思い出を語ってもらって大いに盛り上ってきたが、この辺で、出席の方々に一人ずつ、思い出を語ってもらいたい。

佐藤 私の代で金子というマナージャーがいたが、4年の時、関東大会に申込を忘れた。私が下手だったので、初めてAゾックスに出られるチャンスで、一生懸命練習して楽しみにしていたら、ある日、部屋で「実は…」と

いう話になってがっかりした覚えがある（笑い）。

全原 とにかく練習して、いかにしてまたその練習をさぼるか、よくやったと思う。遊びもね。

西沖 私はとにかく4年の時2部で優勝し、そして1部に上がったという事を鮮明に憶えている。

二方 私は連盟に行っていたので、練習というよりも裏方としての思い出が多いが、組合せの時に是非1回戦でも多く勝てるようにがんばった思い出がある。本当に苦労した。

古沢 何と言っても、1部に上がった思い出が1番強い。試合の前日、佐々木が下宿に来て、2人でゲデングデングになるまで飲んで、聖朝佐々木がフラフラしながら、試合に出た。ところがフラフラしながらも、とりにとりまわってフレイナルで勝って1部に上がった。20数本のサーブミスしながら勝つたのにはビックリした。

平井 東日本3位になったのが1番幸せな思い出。よく練習して、今でも没頭できる。それなりの精神的な基礎をつくれたことがとても良かった。慶応で覚えたことを生かして、今もバドミントンで生計をたてて、趣味と実益をかねてやっているとられるのが、とても幸せだ。

加藤 私はマネージャーをやったが、山本以外は皆素人といっても良いレベルだったもので、次の代には期待していたが、全く誰も入ってこず、その次も又入ってこず、大変がっかりした。遊びの方は達者でモラルも随分ダラカさせた。私は、大学に入ってからバドミントンを始めたが、途中でやめようと思ったことは1回もなかった。ともかく入ったからには絶対にやめまいと決めて入った。

門倉 大嶋、千葉、餘野木がいる時に入ったので、私は準レギュラーだったが、秋田の合宿で餘野木が盲腸になって入院してしまった。それでお前入れ、つまりコートが1面あいたので、そこへ入れられた。あの時、あれほど真剣にやったことは、今迄の人生で1度もなかった。ともかく足の裏の皮はなくなるは、ひどい目にあったが、そういう合宿を秋田でやって、行きのがた（笑い）。あれがなかったら、そして餘野木が盲腸にならなかつたら、今の私はないとすら思っている。

山本 今日は忙しいところありがとう。50周年記念式典にはぜひ皆さん出席して下さい。